

前橋市による姫路・岡山・高松市内博物館等諸施設（先進地）の視察調査報告書

2022年8月30日 吉良芳恵

①8月25日（木）午後 「姫路市平和資料館」（平和資料館）

●**展示施設の見学と考察**：展示室のなかで最も印象に残ったのは、空襲時を描いた動画（漫画）とその仕掛けである。決められた位置に立つと、子供達にわかりやすいように動画が始まり、空襲により燃え落ちる家並みのなかを一人の女の子が逃げ惑う姿が現れた。その際最も驚いたのは、家々が崩れ落ちる時の地響きや熱さの「恐怖」を、視覚・聴覚だけでなく体感させる仕組み（立ち位置の地面が揺れる構造）であった。焼夷弾による火災の恐怖のなかを逃げ惑う子供の姿は、最初惨酷すぎるのではないかと思ったが、そのうち引き込まれるように画面を見入るようになったのは不思議な感覚であった。そして、子供達だけでなく大人に対しても、戦争（空襲）の実態を伝え、そこから学んでもらうための装置として地面が揺れる仕掛けは重要なのではないかと思うようになった。ちなみにベトナム戦争時、裸で逃げる男の子の写真が世界中を震撼とさせたが、広島・長崎での原爆展でも目をつぶりたくなる光景（写真）が戦争の惨酷さを訴え続けており、前橋でも戦争の抑止力になる展示を心がける必要があると思われる。その際、惨酷さの表現をどのようにするか、検討する必要があるが、教育現場や子供達の素直な意見を聞きながら、議論を深め、人間の感性を信頼して、戦争の惨酷さから逃げないことを心がけてもらいたい。

●**施設の運営方法**：この施設は市直営ではなく、館員も若い人達が少なかったことが気になった（市を退職した方達の可能性がある）。若者の感性を取り入れ、運営方法に活かしてゆくことが必要だと思われるので、前橋市は若い人の感性を積極的に取り入れ、新しい戦争展示等を試みてほしい（たとえそれが世代間の軋轢となっても、乗り越えるための対話を続けることが重要である）。また市が責任をもって運営する直営方式がベストだと思うが、無理ならば、館の創設準備段階で、市の精神を豊かなものにするための企画に力を入れるべきである。その際、若い人達のアイデアを募集し、常設展示だけでなく、企画展示にも参画してもらう方法も模索してほしい。

②8月25日（木）午後 岡山市「岡山シティミュージアム岡山空襲展示室」（保健福祉局保健福祉部福祉援護課）

●**展示施設の見学と考察**：歴史展示の夏の定番は、昭和戦前期の戦争や空襲である。岡山市のシティミュージアムでも、その一部の部屋が空襲展示に特化されていたが、担当学芸員は美術畑で、組織上の担当責任者は保健福祉局保健福祉部福祉援護課の市吏員というかなり変わった構成になっていて驚いた。また見慣れた展示ではあったが、年によって、種々のテーマや切り口で展示をしているようで、学芸員の苦勞（あるいは苦悩）が想像された。実は、画一化させない空襲展示をするのはかなり大変なことで、誰が担当しても定番的な手法になる可能性があり、「切り口勝負」といっても簡単ではないのである。勿論、博物館の設置場所や今後の展示構想について、また資料収集活動の方法、さらには所管問題、学芸員数や担当部門の課題、今後の希望・展望などについても聞きたかったが（おそらく長い年月、種々の議論がなされてきたと思われるが）、そういうことを答えられる立

場でもないようだったので、表面的な質問しかできなかつたことが残念である。岡山では倉敷美術館が有名だが、歴史民俗系の博物館は「とりあえず」という限定で（あろうか）、駅ナカでの開館という手法が取られたのかもしれない（あるいは今風で効果があるとの判断があつたのかもしれない）。しかし駅ビルのもつ経済利便性（採算）を考えると、いずれ商業施設が望まれるようになり、学ぶことを目的とする歴史展示は敬遠されることが予想される。勿論人間の営みには、うるおいとしての文化が必要であり、それを支えるのが、地球や人類の歴史の解明に堪え得る「殿堂」としての博物館であり、このことを無視することは、これまでの歴史、これからの歴史を無視、つまりは我が身を無視することになるから、ゆったりとした環境が必要である。

③8月26日（金）午前 高松市「高松市平和資料館」（人権啓発課平和記念館）

●**展示施設の見学と考察**：9歳頃から20歳頃迄高松市に住んでいたこともあり、大変興味深く見学した。戦前期の香川県は、農民運動が激しかったところとして知られ、しかもいわれなき差別も激しいところであった。また戦後は学力テスト一位をとり続けた県としても有名で、多様な文化を育てるという気風はあまりなく、高等教育（大学等）は県外に出て受ける傾向が強かった。そのため文化的環境整備に力を入れていたという記憶はあまりない。今回訪問した平和資料館は、近辺に高校野球の名門校旧制高松商業学校（現香川県立高松商業高等学校、巨人軍の名監督水原茂の出身校）や高松刑務所などがあり、また海浜部にはかつて塩田もあり（その昔は塩田をめぐる地主・小作関係があつた）、必ずしも文教地区とはいえない地域であった。平和記念館は、こうした高松市の中心部からやや離れた場所に設置されているが、地域の若い人々に親しまれているようで、戦争や平和を考える教育の場所として今後期待される施設だと思われる。新しい息吹が感じられ、また説明をして下さった若い館員の方の対応も大変気持ちのよいものであつた。文化施設は、館員の方の質が最も問われるので、前橋市もこの点については十分に留意する必要がある。

以上が、各資料館を参観しての感想であるが、こうした諸館の長所・短所をよく吟味し、あるべき資料館像を構築し、前橋に新しい「空襲と復興」の資料館をつくっていただきたい。なおその際、資料館の精神として重要なのは、市民の希望を取り入れ、さらに若者達が郷土に愛着をもち、新しい文化的都市の形成に参画できるような「センター的存在」になることであろう。また戦争や空襲、さらには戦後を経験した方達も高齢となっているため、聴き取りや戦後の歴史資料の収集を急ぐ必要がある。その際、学校等教育現場を利用するのも有効であろう。

1 姫路市平和資料館

(1) 施設関連

- ・平和資料館単独の施設で、エントランスホールから展示室内まで、施設全体で体系的な配置、設備となっている。
- ・施設整備費は、6.5億円。
- ・館内に収蔵庫あり

(2) 運営関連

- ・正規職員1名（係長）、再任用職員3名（館長、副館長他）
- ・学芸員は配置されていない
- ・受付業務は業者委託
- ・企画展示は業者委託（年4回、コンセプトは館で検討し、指示している）

(3) 所感

- ・全国戦災都市空爆死没者慰霊塔とあわせて、一体の施設となっている印象
- ・施設は若干老朽化しているが、専用施設であり面積も広い
- ・一方、専用施設であることから、運用コストがかさんでいる印象
- ・映像と振動による体験型設備などは、専用施設ならではのと思われる。

2 岡山空襲展示室

(1) 施設関連

- ・岡山シティミュージアム5階（再開発施設）
- ・施設整備費は、6700万円（シティミュージアム内の改修費）
- ・収蔵庫、作業スペース、スタジオは、シティミュージアムと共用

(2) 運営関連

- ・正規職員1名、学芸員（会計年度任用職員）3名
- ・展示内容は学芸員が企画している
- ・毎年企画展（戦災の記録と写真展）を実施。図録を作成

(3) 所感

- ・学芸員が配置されていることから、図録など資料類が充実している
- ・新しい施設で展示も新しい
- ・シティミュージアム内にあるため、共用施設（収蔵庫、作業スペース、スタジオ）が充実
- ・姫路と比較して展示スペースは小規模（本市予定施設と同規模）だが、展示はコンパクトでよくまとまっている。
- ・駅から至近で、シティミュージアム併設のため、フラッと訪れる来場者も見込める印象。

3 高松市平和記念館

(1) 施設関連

- ・たかまつミライエ5階
- ・施設整備費は、1.5億円（ミライエ内の改修費）
- ・旧市民文化センター内の平和記念室をセンター改築に伴い記念館に。
- ・館内に収蔵庫あり

(2) 運営関連

- ・正規職員1名（館長）、事務1名（会計年度任用職員）、学習担当2名（会計年度任用職員、中学校長OB）
- ・「教職員のための平和教育講演会」、「平和学習（小4、小6、中学生）」などを実施。

(3) 所感

- ・新しい施設で展示も新しい
- ・学芸員は配置されていないが、学習担当によるソフト事業が充実している。
- ・ミライエ全体が子ども向け施設であり、特に子どもをターゲットとした事業が充実している。
- ・学習担当（中学校長OB）による平和学習は好評で、市外から訪問する学校もあるとのこと。子どもたちが平和の大事さを認識する目的としては良い取組と感じる。一方で学習担当の個人的な能力に負う部分も大きくノウハウの継承が課題とのこと。

4 全体の印象（運営面を中心に）

- ・いずれの施設も市正規職員1名を配置しているが、市職員は定期的に異動があるため、中心は学芸員（岡山）や会計年度任用職員（姫路、高松）が担っているように感じられた。
- ・施設の性格として、博物館的印象の施設（岡山）と平和教育・学習を主とする印象の施設（姫路、高松）に分けられるように感じた。（当然両方の性格を有しているが）
- ・いずれの施設も来場者数が漸減しており、関心のある来場者が一巡したあとの対策について、苦慮していた印象。

視察報告

手島仁

1、姫路市平和資料館

○空襲に視点を置いた資料館。○6月22日、7月3日と大規模な2回の空襲を姫路空襲と定義。○姫路市平和資料館条例、同施行規則が参考になる。○川西航空の工場があったことから、そこで製造された爆撃機「紫電改」を展示の中心テーマの一つとし、米軍爆撃機B29などとともに、爆撃機の模型などを展示している。かつては、戦争を肯定（賛美）するものと見られる傾向にあったが、姫路空襲の視点から展示すると大丈夫なのだとわかった。○死者数など合併以後のものなどは含めない。○ジオラマ展示がメインとなるが、経費と故障の問題を抱えている。○学校コーナーで当時の学校の様子を紹介し、現代と比較し小学生の関心のきっかけとしている。○企画展示は学芸員がいないので業者委託。

※戦災復興記念塔の建設には、群馬県の被爆都市として前橋・高崎・伊勢崎の3市が協力し、その死者や爆撃回数などが刻まれている。8月5日の前橋と高崎をどのように扱うか。塔建設に対して前橋市から回答した行政文書が残っているはずで、そうした行政文書の展示が可能なのではないか。

2、岡山空襲展示室

○展示には、姫路・高松がアメリカ側の資料をほとんど使っていないのに対して、よく使われている点（全国空襲研究者の工藤洋三氏から）が特徴で参考になる。○「1945年6月29日岡山空襲の記録」（2種類）「市内に残る戦災の遺跡—ガイドマップ」とパンフレットが素晴らしい。パンフレット類が参考になる。○多言語対応のチラシが用意されている。○中学生を主対象にしている。○レプリカの展示が中心。○2005年から聞き取り調査を行っている。

○見学する時間的余裕がなかったが、岡山の護国神社には、出征者の視点で戦争展示の資料館もあり、岡山市で多面的に戦争について考えることができるようになっている。

3、高松市平和資料館

○展示は「企画展示」・「映像検索コーナー」（戦争中の暮らし（衣食住）・戦争中の子どもたち（教育）・戦争中の社会（経済や制度））・「戦前・戦時下の高松」・「高松空襲（昭和20年7月4日）」・「高松空襲6人の証言」・「高松市のジオラマ」・「終戦・戦後の高松」・「平和への取り組み・核兵器廃絶」。○ほかに事務室・倉庫・収蔵庫・図書レファレンス・映像学習室がある。

○小学校4年生を対象に平和教育をしている。○教職員のための平和教育講演会を実施。○資料の寄贈については、ストーリーのわからないものは受け入れない。

※総合的に最も参考になる資料館であると思う。

※面積的に考え、前橋市は「映像検索コーナー」「高松空襲」「高松市ジオラマ」「終戦・戦後の高松」「事務室」「収蔵庫」「図書室」「資料展示室」のような構成になるのではないか。

「映像検索コーナー」で戦前・戦時下を扱う。

「空襲」「ジオラマ」で前橋空襲を扱う。

「終戦・戦後」で復興を扱う。

「図書室」で町田コレクションやあたご資料館の蔵書類を並べる。

「資料展示」であたご、町田資料や今後市民から寄贈の資料を展示。

※姫路市でも助言をもらったが、小学校の授業に組み込むために、教育委員会担当部署や現場の先生との意見交換が必要（一連の学習会が終わったら、セットしてもらいたい）。カリキュラムに組み込んだり、教員の研修に使ってもらったりする。

※映像（ジオラマ・プロジェクションマッピングなど）を駆使したいが、姫路市でも助言をもらったが、大手業者に依頼していいものはできるが費用は掛かり、故障時のメンテナンスが大変である点をどうクリアするか。

※3市とも時間的余裕がなく戦争遺跡を回れなかった。1市でもよいから、たとえば「高松平和マップ」をもとに街歩きをしたい。

その他

○3館共に運営維持には、マンパワーが必要であると助言してもらった。前橋市では、市民学芸員が運営・資料調査・整理、研究などを担うことができ、その点は大丈夫なのでは。

○3市とも空襲の日を定めている。前橋も8月5日を「前橋空襲の日」し、無料開放の日などにした方がよい。

○空襲に関する研究は近年、進捗（たとえば『ボマーマフィアと東京大空襲』は、東京大空襲から指揮官が変わり、精密爆撃から67都市の無差別爆撃へ変わったことを明らかにした）。開館時点でどれだけ、最新の成果を収められるかが大切。5年後に新しい研究成果があれば、リニューアルするというふうに、絶えず新しい成果を吸収できる展示のあり方も考えたい（市民がつくりあげる資料館）。

○前橋空襲・復興をできるだけ多角的な観点から紹介し、そこから戦争を考えるようにしたい。○8月5日に焦点を当て、空襲前、空襲、空襲後—行政や人々のさまざまな動きを、行政文書や証言から多角的に描き出し、戦争という極限状況の中でも、どのように行動すると、被害が最小限にできるのか—ということも展示できないか。復興はどのような市民合意、援助体制のなかでできたのかを示すとともに、復興のあり方を各都市と比較したい。姫路市は復興にあたり、市長が反対派を説得し駅前から城までの大通りを開設。駅に降り立つと国宝姫路城が見えると、現在でも高く評価される都市計画が行われた。豊橋市も、民衆駅をつくる、路面電車を残すため、区画整理で道路を広げ、車と路面電車が共存できる街にした。駅前も街なかも、にぎやかなのは、戦後復興計画の違いという面も大きいのではないか。